

# いちのみやの芸術文化

■ 特集「いちのみやの戦国史跡（小牧・長久手の戦い）」

■ 「エッセイ」アーティフィシャルフラワーに魅せられて

二宮アーティフィシャルフラワー協会鶴の会

柳原田主子

「活

動」

音楽と尾西ウインドオーケストラ

尾西ウインドオーケストラ

不破

皓

史跡 吉藤城跡

吉藤城跡

■ 第73回一宮市美術展入賞者

■ これからの催し

■ 文化講演会（報告）

2015.12

第35号

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

# いちのみやの戦国史跡

## （小牧・長久手の戦い）

### ◆小牧・長久手の戦い

天正十年（一五八二）、織田信長が本能寺で討たれた後、織田家の家臣同士の抗争に勝利した羽柴（豊臣）秀吉は天下統一に乗り出しました。秀吉の台頭に対し、信長の次男で尾張と伊勢を領有する織田信雄は、秀吉に対抗するため三河等五ヶ国を治める徳川家康と手を結びました。天正十二年、秀吉は織田・徳川連合軍と衝突しました。これが小牧・長久手の戦いです。

小牧・長久手の戦いは、その名称から小牧と長久手での戦いを想像してしまいます。しかし、戦場は尾張東部だけでなく、西尾張や美濃南部、伊勢でも戦闘があり、全国の大名と旧織田家臣が、信雄・家康か秀吉のどちらかの陣営に属する大規模な戦いで

した。家康は小牧山に布陣し、秀吉は犬山に入り、両軍のにらみ合いが続きました。四月九日、秀吉は甥の秀次を大将に別働隊を編成し三河に攻め入ろうとしましたが、長久手で徳川軍の奇襲攻撃にあい大敗し、池田恒興や森長可、さらに長可の義弟で一宮城主の関長安等、歴戦の武将たちが討死しました。

なお、一宮城には小牧・長久手の戦いの後、織田信雄の家臣が入城しましたが、天正十八年に家臣が去ると廃城とされまし



▲一宮城跡（本町3丁目）

た。  
現在、一宮城の遺構はありませんが、石碑だけが残っています。

### ◆木曾川流域の戦い

五月に入ると主戦場は西尾張と美濃南部（現在の一宮、羽島、海津市付近）に移り、現在の一宮市や羽島市内（当時は尾張国）には信雄・秀吉両陣営の砦がありました。織田陣営としては吉藤城（明地）、苅安賀城（大和町苅安賀）、奥城（奥町）、そして竹鼻城（羽島市）があり、秀吉の陣営には大野城（浅井）、河田城（浅井）、下奈良城（西成）、大浦城（羽島市）等がありました。一宮市付近は両陣営の砦が混在する最前線だったことがわかります。

五月五日、秀吉は富田聖徳寺に本陣を置いて対岸の加賀野井城（羽島市）を攻めました。城主の加賀野井重望は徹底抗戦しますが七日に落城し、さらに九日には信長の弟の中根信照が守る奥城を開城させ、十日には竹鼻城攻めを開始しました。城主の不破広綱は城の守備を固め、籠城戦に備えていましたが、秀吉は竹鼻城の守りが固いことを知ると、力攻めを避け、水攻めを開始しました。城の廻りに堤防を構築し、木曾川



▲吉藤城跡(明地字吉藤)



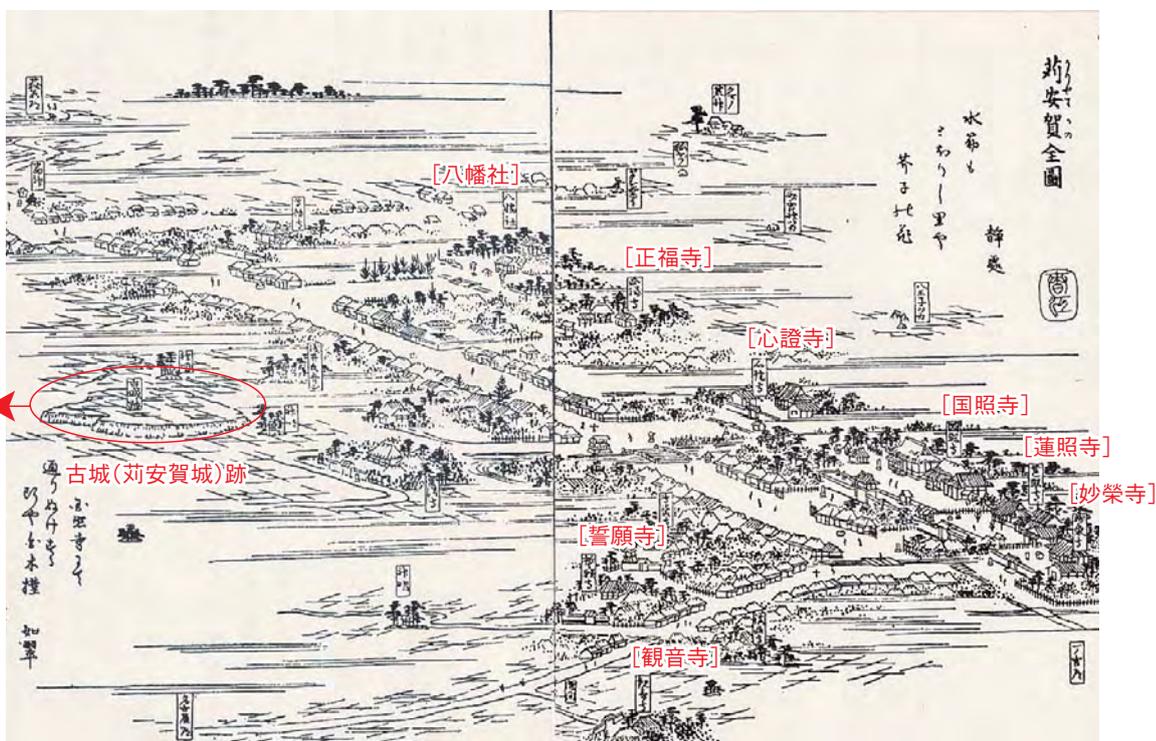
▲加賀野井城跡(羽島市加賀野井)



▲小牧長久手合戦関係地図(一部)『いちのみやの戦国武将と史跡』を加工



▲荻安賀城跡(大和町荻安賀)



▲描かれた古城(「荻安賀全図」尾張名所図会 後編巻一)

参考文献 藤田達生編『小牧・長久手の戦いの構造』(岩田書院 二〇〇六)・一宮市木曾川資料館『いちのみやの戦国武将と史跡』(二〇〇六)

(一宮市尾西歴史民俗資料館 学芸員 宮川充史)

取りに動きだしました。

江戸を中心に力を蓄え、秀吉の死後、天下

田原の北条家を破り天下統一を成し遂げました。この時、秀吉は家康を東海から関東に移しました。家康は新たな拠点となった

臣家に従い、天正十九年(一五九二)には小

秀吉と名を改めました。この年、家康も豊

翌天正十四年(一五八六)には秀吉は豊臣

小牧・長久手の戦いは終結しました。

と境川から水を入れ竹鼻城を孤立させました。

秀吉軍の竹鼻城攻めに対し、信雄は前線の吉藤城に織田長益(信長弟)と滝川雄利等を配置し守備を固め、徳川軍の豪傑で知られた本多忠勝が日光川の左岸にある萩原に入り込みました。秀吉は水攻めで竹鼻城を孤立させ、信雄と家康をおびき寄せて、一気に雌雄を決めようと計画していたとされます。ところが家康は小牧から動かず信雄も援軍に行くことはなく、六月十日、竹鼻城は降伏し、戦線は伊勢方面に移りました。

十一月になって信雄が単独で秀吉との和議に応じたため、家康は戦いの名分を失い、小牧・長久手の戦いは終結しました。

## エッセイ

社会文化部門 一宮アーティフィシャルフラワー協会の会

柳原 田主子

# アーティフィシャルフラワーに魅せられ

子育てにも多少ゆとりができ、何か習い始めたいと考えていた時に目にしたのが、深雪アートフラワーの案内でした。早速レッスンを受けることに。その時に習ったお花は、高級ブティックに並べてある様な素敵なコサージュでした。今思えばそれが深雪アートフラワーとの初めての出会いです。

その後もレッスンを重ね、「東京深雪スタジオ ホテルオークラ」でのレッスンを受講できるま



深雪アートフラワー三代目主宰飯田恵秀先生と



深雪アートフラワーに囲まれて

でになり、主宰である飯田深雪先生に直接ご指導をいただきました。その中で「素晴らしい芸術品は私達を幸せにくれる」、「自然の花の色は神の手になった至上の芸術です」など、お花に関したことだけではなく、多くの常識も教えていただきました。

この深雪アートフラワーは「立体の絵画」ともいわれ、制作するときは日頃から植物園や花屋で観察したり、植物図鑑などで研究し

たりする様にしています。実物に少しでも近づくように制作していますが、丸写しにならない様に自分なりの感性でその花の持つ美しいさや優しさを引き出すように努力し、全く新しい「美」を創り出すのです。

昨今は技術も進歩し、バイオテクノロジーの力で一年中素敵な花が咲き誇っている中で、この様に手間の掛かることは敬遠されがちですが、病院では植物に付着している菌が入らないので喜ばれており、また同様に博物館や美術館などでも保管されている文化財が腐



食する心配がないので重宝されています。

「文化」という言葉が流行りましたが、私はこの深雪アートフラワーを制作する技術はまぎれもなく一つの文化で、それも「めんどくささの文化」だと思います。この文化を大切に生徒達にも後世にも伝えていきたいと思っています。



長寿社会になり、「生きがい」を持つことが何より大切と考えられています。深雪アートフラワーの良さと楽しさを多くの人に知っていただきたいと願いつつ、これからも感謝の気持ちを忘れずに精進してまいります。

# 音楽と尾西ウインドオーケストラ

吹奏楽・管弦楽部門 尾西ウインドオーケストラ 不破 皓

人間は何故音楽をするのだろうか。それは「音楽をすると楽しいから」。そして聴く方も良い気持ちになるし、時には感動・感激することもあるから」だろう。

音楽の好きな人にとって音楽をすることは、理屈抜きで楽しいこととであり、特にアンサンブル(合奏)は一層楽しい。音楽を聴く楽しみ、合奏する楽しみ、自己主張する楽しみも加わり、多くの人が協力して一つの曲の演奏を成し遂げる喜び。満足感を味わうことができ、生きることへのエネルギー源にもなる。素晴らしいことだと思ふ。しかし、多くの人々に音楽を聴いてもらいたい気持ちにさせたり、感動・感激させたりするためには、演奏者としてより良い音楽を演奏することが当然のことであり、その演奏者たちの資質をいかに高め、維持していくかが求められる。

私たち尾西ウインドオーケストラは、昭和42年6月に発足してま



第75回定期演奏会(平成26年6月)より

もなく50年を迎えようとしています。冒頭に記したような「良い演奏」に向かってようやく意識が芽生えきたのが、概ね発足後10年を経てからのことでした。昭和52年より、日本が生んだ世界のポップスアレンジャー・作曲家の故岩井直博氏を指導者に迎え、以来35年間に渡りポップスやジャズの演奏では定評がありました。岩井先生



演奏会フィナーレにて

は岩井ファンが多く、ステージでは岩井ファンが多く

私たちの活動の中でも特に印象強く記憶に残っている事業として、シンガポール共和国への国際交流演奏旅行を平成5年、10年、12年に行いました。ピクトリアメモリアル・コンサートホールで行った演奏会では、聴衆総立ちでの拍手を受け、皆興奮状態だったことを覚えていきます。また、シンガポ

ル大使公邸への表敬訪問、シンガポールの学校との交歓演奏会、セントーサ島でのコンサート等、心に残る貴重な体験をさせていただきました。音楽の持つ「素晴らしい」をきっかけに、今でもシンガポールの友人と交流を交わしています。

現在は、平成16年4月より指揮者として八城崇幸氏を迎え、素晴らしい音楽性でメンバーを一つにまとめていただいています。氏のガルツブルグ留学時の貴重な体験や音楽についての解釈等を折り混ぜての指導に、感嘆しながら練習に励み、少しでも冒頭の一文に寄り添いたいと思う今日この頃です。



第75回定期演奏会(平成26年6月)より

# 一宮市美術展



会場風景

11月12(木)～15日(日)まで、一宮スポーツ文化センターで「第73回一宮市美術展」が開催されました。市内を中心に近隣市町村や、県外からも多数作品が寄せられ、出品者は525名で、審査の結果、入賞となった175点をはじめ、522作品が展示されました。期間中は、約5,000人の方が会場を訪れ、作者の熱意・エネルギーを感じさせる多数の作品を熱心に鑑賞されていました。

各部門で入賞された方は、次のとおりです。なお、同一賞内での掲載順は順不同です。(敬称略)

## 日本画

審査員 星野哲弘

市長賞 河村明美

三矢菜穂子  
教育委員会賞

近松妙子  
美術展賞

川瀬貢一 高柳襄  
瀧廣美 山田勝利

奨励賞 今枝昭 宇佐見信子

入選 星野真由 森賢二  
31点

## 洋画

審査員 山田彊一

長谷川 佑

岩田哲夫

後藤泰洋  
三輪清弘  
堀尾一郎

市長賞

磯部和久 小澤富美子  
柘植雅一

教育委員会賞

青井トシ子 安藤孝信  
飯田耀子 小野秀史

美術展賞

浅田百合子 石黒三雄  
石原孝一 岩田富雄  
江口和夫 神谷久子  
河村正子 木村忠嗣  
倉地彩子 後藤絵理奈  
後藤哲子 丹慶哲宏  
長島瑠璃奈 中田世津子  
中山昌明 羽田里絵  
速水基司 藤井忍  
三島泰子 水巻久美子  
森健次 森耕太  
森部みや子

奨励賞 浅野なつ子 磯部静子  
上野幸雄 臼井哲雄  
梅田恵子 柿原テ儿子  
神谷武 川野允裕  
京極真由未 小早川桐子  
島津秀典 高木みどり  
高野清 田中勢智代  
堤博子 富岡僉治  
榎谷咲子 則武武子  
馬場越子 原隆行

松本尚子 森田孝  
山田規夫 吉川京介  
入選 157点

## 彫刻・立体

審査員 森克彦

市長賞 川原孝文

石川容子  
教育委員会賞

伊藤毅  
美術展賞

西川久雄  
奨励賞

浅野金郎 久門大輝  
入選 16点

## 工芸

審査員 加藤陽児  
林節子

市長賞 川瀬正二

教育委員会賞 桑原紀保

美術展賞 尾関祐二

丹慶哲宏 鈴木良子  
奨励賞 伊藤英正 大島忠敏  
坂井順司 西井美門

入選 34点



工芸部門解説

デザイン

審査員

源 安孝  
岡崎 美穂

市長賞

呼元 勇樹

教育委員会賞

柘植 雅一

美術展賞

青山 裕史

奨励賞

加藤 千佳子

西 美佳

中川 麻衣

飯田 瑞紀

入選 25点

書

審査員

土屋 陽山  
鬼頭 翔雲  
亀山 雪峰  
木戸 竹葉  
林 大樹  
則武 穹  
森隆 城  
安藤 蘇道

市長賞

春日井 栄嘉  
長崎 成秀  
酒井 光華

教育委員会賞

内出 紅華  
尾関 明美  
佐合 華婉  
林 華静

美術展賞

浅井 妍翠  
安達 加寿子

安藤 静歩  
井上 紅鳳

今井 恭子  
岩田 展穂

岩根 民江  
大橋 溪煙

小川 香風  
片桐 瑤雪

木村 輝扇  
古池 恵舟

小島 華扇  
後藤 柳月

近藤 由果  
高松 彩月

戸本 有荷  
戸谷 嘉恵

内藤 春翠  
林 翠竹

平野 桃瑶  
村上 桂峻

保田 昌石  
脇田 玉波

奨励賞

入選 169点

石井 玉華  
岡崎 啓雪  
川辺 舟楫  
北村 恣嶺  
小林 進  
志知 隆道  
竹内 深風  
鳩山 煌華  
平岩 幸子  
深谷 秋月  
牧野 瑞葉  
村瀬 紫苑  
山路 静竹  
山本 瑶華  
大塚 雅泉  
梶川 朝景  
神田 鴻都  
小林 修堂  
佐藤 里さ  
鈴木 春瓊  
谷本 喜泉  
濱田 梨沙  
平松 豊泉  
前野 樹風  
松永 翠峻  
山内 山抱  
山田 清翠

審査員

塚本 伸爾  
丹羽 正仁  
夫馬 三平  
林 勲

市長賞

安藤 義弘

教育委員会賞

安藤 雅彦  
藤田 正夫

美術展賞

安藤 治仁  
市川 志津夫

今井 彰二  
大矢 真理子

小川 照秋  
小原 勇二

春日井 義三  
桜井 悦子

中村 由美子  
林 都美子

水野 雅央  
三野 彰

奨励賞

安藤 正一  
大矢 勝利

岡田 忠夫  
笠野 俊彦

加藤 紀子  
小島 高子

千田 陞末  
竹田 浩子

田端 勉  
所 由紀子

橋本 秀子  
長谷川 蔦江

林 孝弘  
古澤 光生

村川 孝司  
吉田 幸蔵

入選 90点

写真

# 文化情報



「寒風の中で」

伊藤 繁雄

## 《市および市内公共施設の催し予定》

※一宮市博物館・三岸節子記念美術館

・尾西歴史民俗資料館について

○入館は午後4時30分まで

○月曜休館(月曜日が休日の場合は開

館)、休日の翌日休館、12月28日(月)

1月4日(月)休館

### 一宮市博物館

〒463215

#### 企画展「暮らしの中の民具」

「暮らしのおまじない」

日時 1月9日(土)～3月13日(日)

午前9時30分～午後5時

内容 昔なつかしい生活道具の展

示を通して、今と昔のくらし

のの違いを見つめます。

観覧料 一般 200円

高大人 100円

小中生 50円

※市内小中生・65歳以上無料

#### 「民俗芸能公演」

日時 ①1月31日(日) 午後2時～

3時 ②2月14日(日) ③2月28

日(日) 午後2時～2時30分

内容 ①島文楽②宮後住吉踊

③ばししょう踊

定員 各回先着60名(当日午後1

時より整理券を配布)

※要常設展観覧料

#### 講座「尾張平野を語る20

「信仰の歴史と民俗」

日時 ①3月6日(日) ②3月13日(日)

③3月20日(日)

午後1時30分～3時

講師 ①加藤基樹氏(富山県「立山

博物館」学芸員) ②林淳氏

(愛知学院大学教授) ③蒲池

勢至氏(同朋大学仏教文化

研究所客員所員)

内容 ①尾張から日本三霊山の大

巡礼②尾張の陰陽師・万歳

師・修験者③尾張平野の寺

院・村・門徒

定員 各回先着100名(当日正

午より整理券を配布)

※要常設展観覧料

### 三岸節子記念美術館

〒4632892

#### 常設展「三岸節子

ヨーロッパ探訪」

日時 10月3日(土)～1月17日(日)

午前9時～午後5時

内容 心に響く風景を描いた画家

は、新の風景画家と成り得

たのか。イタリア、スペイ

ンに広がる情景を、独自の

風景画作品に問います。

観覧料 一般 320円

高大人 210円

小中生 110円

※市内小中生・65歳以上無料

#### 特別展「生誕110年記念

三岸節子展 私は燃えつづける」

日時 1月23日(土)～3月6日(日)

午前9時～午後5時

内容 生誕110年を記念し70年

に及ぶ画業をたどる回顧展

を開催します。

観覧料 一般 800円

高大人 400円

小中生 200円

※市内小中生・65歳以上無料

※常設展観覧料を含む

### 尾西歴史民俗資料館

〒4629711

#### 冬季企画展「織物のまち

「大正・昭和の起町」

日時 1月16日(土)～2月28日(日)

午前9時～午後5時

内容 旧起町が織物産業の発展に

よって変化していく様子を

紹介します。

観覧料 無料

#### 歴史講座「歴史と民俗19 資料館

開館30年～歴史を振り返る」

日時 2月7日(日)・14日(日)・21日

(日) 午後1時30分～3時

内容 開館30年の歩みを振り返り、

これからの資料館の役割について考えます。

定員 ● 先着40名

参加料 ● 無料

### 歴史講座「街道文化を探る」

日時 ● 3月6日(日) 午前9時～午後4時30分

内容 ● 宿場町の遺構が豊富な地域を訪ね、市内では失われたつある宿場の文化や歴史資料の大切さを学びます。

定員 ● 35名

参加料 ● 無料

※要申込み。詳しくは広報2月号を参照

## 中央図書館

☎(72)2343

### 「一宮の民話と今」写真展

日時 ● 3月16日(水)～30日(水)

午前9時～午後9時

内容 ● 一宮の民話とその民話にまつわる地の写真を展示します。

会場 ● 6階 多目的室2

観覧料 ● 無料

## 尾西図書館

☎(62)8191

### 「読み聞かせ講習会」

日時 ● 2月19日～3月18日の毎週

金曜日 午後1時～3時

内容 ● おはなし会に役立つ絵本の選び方や読み方、プログラムの作り方などを学びます。  
定員 ● 20名(定員を越えた場合は抽選)

参加料 ● 無料

※詳しくは広報1月号を参照

## 青少年育成課

☎(84)0017

### 「ヤングフェスティバル」

日時 ● 3月13日(日)

午前10時～午後3時

内容 ● 青少年グループ活動の発表会で、一般の方も自由に観いただけます。子ども向けのイベントもあるので、ご家族連れでもどうぞ。

会場 ● 木曾川庁舎3階

参加料 ● 無料(内容により有料)

## 経済振興課

☎(71)2021

### 「一宮市消費生活フェア」

日時 ● 2月20日(土)・21日(日)

午前10時～午後4時(21日は午後3時まで)

内容 ● 消費生活・食生活など、日常生活に密着した問題を研究し、パネルなどで発表します。

会場 ● 尾張一宮駅前ビル

入場料 ● 無料

## (公財)一宮地場産業ファッションデザインセンター

☎(46)1361

### ジャパン・ヤーン・フェア & 総合展「THE尾州」

日時 ● 2月24日(水)～26日(金)

午前10時～午後5時

内容 ● 国内唯一の系の展示会や尾州産地の素材、またそれらを活かした衣装等を展示し、繊維産業、ファッション産業の今をPRします。

会場 ● 総合体育館

入場料 ● 無料(系の展示会は商談)

者のみ入場可)

## 一宮市 芸術文化協会 加入団体の 催し

### 「市民俳句教室」

【問合せ先】一宮市民俳句教室

☎(73)5504

日時 ● 12月20日(日)・1月24日(日)

2月28日(日) 午後1時～

会場 ● 一宮スポーツ文化センター  
内容 ● 当季雑詠3句を一宮市民俳句教室委員が指導します。(初心者歓迎)

参加料 ● 無料

申込み ● 当日直接会場

### 「市民川柳教室」

【問合せ先】一宮川柳社

☎(45)6951

日時 ● 12月20日(日)・1月24日(日)

2月28日(日) 午後1時～

会場 ● 一宮スポーツ文化センター

内容▼自由吟および課題吟を一宮川柳社委員が指導します。  
(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

### 『清聲會定例会』

【問合せ先 一宮漢詩清聲會】

☎(78)7953

日時▼12月26日(土)・1月23日(土)

2月27日(土) 午前10時〜

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の基本的な読み方を

はじめ、作者の時代背景に

も触れながら初めてのの方に

も分かりやすく「唐詩三百

首」を解説します。

(初心者歓迎)

講師▼三島徹氏(東洋文化振興会

会長)

参加料▼月2,000円

申込み▼当日直接会場

### 『清聲會作詩教室』

【問合せ先 一宮漢詩清聲會】

☎(78)7953

日時▼1月5日(火)・2月2日(火)

3月1日(火) 午前10時〜

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の作り方の指導をは

じめ、持ち寄った創作詩の  
添削の検討を会員間で行い  
ます。(初心者歓迎)

参加料▼年3,000円

申込み▼当日直接会場

### 『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎(51)2286

日時▼1月9日(土)・2月13日(土)

3月12日(土) 午後1時〜

(2月は午前9時30分〜)

会場▼葉栗公民館

内容▼各自10句持参、互選により

優秀作を記録に残します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

### 『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(51)3570

日時▼1月10日(日)・2月14日(日)

3月13日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼真清短歌会委員により実作

指導します。(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

### 『新年短歌会』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(51)3570

日時▼1月24日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼どなたでも(大会に先立ち

ハガキにて雑詠一首提出)

参加料▼500円

申込み▼当日直接会場

### 『平成27年度支部講演会』

【問合せ先 (公)中日本書道会

一宮支部】

☎(62)1841

日時▼3月6日(日)

午後4時〜5時30分

会場▼一宮スポーツ文化センター

講師▼愛知大学教授 荒川清秀先生

演題▼「中国の街で見る漢字」

〜日中漢字の意味の違いを

考える〜

入場料▼無料(一般聴講歓迎)

### 『加入団体の催し』欄に情報を掲載しませんか？

このコーナーでは一宮市芸術文化協会加入団体の活動情報を募集します。掲載を希望される団体は、発行月3・6・9・12月の前々月15日までに、下記の必要事項を任意の様式にて記入の上、事務局まで提出してください。

**必要事項** ①行事名 ②団体名 ③問合せ先電話番号 ④日時  
⑤会場 ⑥対象 ⑦参加料 ⑧申込方法 ⑨その他  
必要事項

**提出先** 〒491-8501 一宮市芸術文化協会事務局  
(住所不要)  
またはFAX 0586-73-9213

## 『いちのみや文芸』 第44集を刊行

10月17日(土)に「いちのみや文芸第44集」を発刊しました。

随想・随筆、現代詩、漢詩、短歌、俳句、狂俳、川柳の7部門あわせて327名の方から寄せられた2,541作品を掲載しています。

1冊800円で一宮市役所本庁舎4階(市教育委員会生涯学習課)にて販売しています。是非、お読みください。

2015  
いちのみや文芸



一宮市芸術文化協会

なお、ここで、印刷に一部誤りがありましたのでお詫びして、左記のとおり訂正させていただきます。

※89頁下段 7句目  
正鳥丸に立つ 誤鳥丸に立つ

## 愛知県文化協会連合会の

### 催し(報告)

## 愛知県文連美術展

9月29日(火)～10月4日(日)、愛知県美術館8階ギャラリーを会場に第40回愛知県文連美術展が開催され、県下より369作品が入賞・入選に輝きました。

本協会からは(日本画の部)今枝昭さん、今枝由恵さん、尾池純子さん、瀧廣美さん、藤塚章さん、眞野尊さんの6名、(洋画の部)伊熊睦子さん、江口和夫さん、江森操さん、梶浦千恵子さん、桑山直樹さん、高木みどりさん、寺澤裕見子さん、長谷川千代子さん、久田千恵子さん、藤田勝秀さん、古田好子さん、山田紀代子さん、米津美代子さんの13名、計19名の方がそれぞれ力作を出品され、皆入選されました。

期間中、約1、600人もの方が来場され、どなたも芸術の秋を満喫されていました。

## 愛知県民茶会

10月18日(日)、扶桑町中央公民館と扶桑文化会館を会場に、愛知県民茶会が行われました。

愛知県文化協会連合会と扶桑町文化協会のご尽力により、五つの文化協会の皆様が設席をされ、当日は約1、800人もの方が来場されました。



本協会からも一宮茶道連盟の皆様が設席をされました。人と人とのふれあいを通じて、「和敬静寂」の茶の心を味わっていただけのお茶席で、ご来場された皆様は心温まる和やかなひとときを過ごしていました。



## 愛知県文連西尾張部芸能大会

11月29日(日)、弥富市総合社会教育センターを会場に、西尾張部芸能大会が開催されました。

愛知県文連西尾張部に所属する十の文化協会の各団体により発表された演目は太鼓や舞踊、フラダンス、大正琴、津軽三味線と多岐にわたりました。日頃の練習の成果が存分に発揮された発表に、会場からは温かい拍手が送られていました。

本協会からは「津軽三味線恋糸」(邦楽部門)の皆様が出演され、「津軽しょんから六段・津軽甚句・津軽しょんかられんし」の演題を披

露されました。その発表は見ている者を魅了する大変素晴らしいものでした。



## 一宮市表彰条例 による表彰

9月1日(火)、一宮市民会館において市制94周年記念式典が行われ、当協会の坂井齊理事(俳句部門)が文化功労者として、その永年にわたる功績を讃えられ、一宮市長より表彰を受けました。

心よりお慶び申し上げます。

## 人生が変わる

言葉の力・書力の力

書道家 武田 双雲さん

10月17日(土)、一宮市民会館にて文化講演会が開催されました。書道家としてご活躍中の武田双雲さんをお招きし、ご講演いただきました。

## 【講演要旨】

人生は本当に簡単なことで変わっていきます。普段は当たり前すぎて気付いていませんが、私達は生まれただけで今まで生きてきた人達の努力や営みを、もらえてしまいます。これはすごいことではないでしょうか。気付いていないだけで、実は毎



日数えきれないぐらいの恵みが溢れていたのです。今日からはその恵みに対して、ほんの少しだけ感動、感謝をしてみてください。するとネガティブになったり、不満になったりしていきます。驚くほどなくなっていくます。朝起きたら動いている心臓に、昇ってくる太陽に、水道の蛇口をひねれば出てくる水に感動してください。きりがありませんが、要するにどこにピントを合わせるかということですね。そして大切なことは、そのピントは自分で選ぶことができるということなのです。

身近な例として夫婦を取り上げてみましょう。世の中には色々な夫婦の形があります。憎しみあっている夫婦も、お互いをリスペクトして感謝し合っている夫婦もいます。この違いはどこから生まれるのでしょうか。世界中の夫婦から話を聞いてわかったことは『違う』ということ

とでした。夫婦の間では鍵の置き場から見たテレビ番組、お腹が減るタイミングまで、何もかもが違うということが共通点でした。夫婦の形の差はこの違うということに対して、苛々しているか、素敵と思っているか、これだけなのです。私の教室の生徒さんにも個性的な方がいます。「先生の字は良いとは思いません」と言われることがあります。そういった生徒さんのことが、面白いと思えるかどうかということですね。

目から鱗が落ちるような話ですが、人間は一日だけに区切ったら皆同じことをしています。起きて、食べて、寝る。イチロ一さんみたいなスポーツ選手も、私みたいな書道家も、皆さんも一日で限ると差はありません。

しかし、現実にはスポーツ選手と書道家という違いがあります。この違いは『気持ち』から生まれてきます。講演の肝になりますが、私達は何かがあるから幸せ、何かが無いから不満というように外部の事実によって感情が動きます。エネルギーと物質はイコールであるというアイン

シュタインの有名な公式がありますが、イコールということは先に幸せになれば、感謝すれば、また、先に不満をいえば、不幸になればそれに見合った物質が現れるということです。朝起きた時に何を思うか、旦那や嫁をどうとらえているか、どうい言葉を選ぶかということが一年経った時に違いとなって出てきます。自分の言葉や表情で、明日の人生を変えることができるということなのです。朝が素晴らしいかどうかは豪邸に住んだから旦那が優しいからということとは関係なく、先に素晴らしいと決めるだけで良いのです。

何度も『感謝』という言葉が申しましたが、この言葉には反義語がありません。感謝という言葉は本当に素晴らしい言葉だと思います。未来に希望を抱くことはもちろん素晴らしいことですが、色々な奇跡によって成り立っている今は最高の瞬間であるということを知り、感謝するところから始めないと、永遠に満ち足りなくなってしまうのです。

【題 字】 武 山 翠 屋  
【編集・発行】 一宮市芸術文化協会

【連絡先】 一宮市芸術文化協会事務局（市教育委員会生涯学習課内）  
〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号  
TEL 0586-85-7075 / FAX 0586-73-9213